

■壺井栄 小説家。小豆島出身で、同郷の詩人繁治と結婚、ベストセラー「二十四の瞳」映画化で、「壺井栄ブーム」。

つばいさかえ

ビブア/国産化・1900＝ 小豆島(香川県小豆郡坂手村)で、樽職人岩井藤吉の五女に生まれる。

兄弟姉妹10人のほか、母が引取った2人の孤児・祖母・住込み職人など20人の大家族に育つ。

日露戦争終・1905＝ 5歳：

伊藤博文暗殺1909＝ 9歳：

明治天皇没・1912＝12歳：内海高等小学校在学中、家が倒産し、他家の子守などしながら、

第一次大戦始1914＝14歳：卒業。父を助けて船に乗り、薪丸太積降ろしなど荒仕事を手伝い、買って貰った「女学校講義録」で勉学、  
21ヶ条要求・1915＝15歳：三等郵便局や村役場で働きながら、兄の影響で文学書に親しみはじめ、

本格政党内閣1918＝18歳： 兄や同郷の黒島伝治・壺井繁治らから雑誌を貰ったり借りたりして読みふける。

原敬首相暗殺1921＝21歳：

治安維持法・1925＝25歳：上京し、既に詩人として名をなしていた壺井繁治と結婚するが、生活は貧困を極め、筆耕で家計を支え、  
隣のエ芙美子や近くの平林たい子夫婦の破天荒な生活にとまどいながらも、助け合って暮らす。

金融恐慌・・1927＝27歳：

共産党事件・1928＝28歳：

夫がアナキズムを離れ、この年結成されたナップに参加。メーデーに参加した際の写真が{アサヒグラフ}にコメント付きで掲載される。夫が検挙拘留される。雑誌{婦人界}が募集した生活記録に応募し、  
掲載されて賞金をもらう。以後も、夫が検挙・釈放の繰返しの中、{戦旗社}の事務員などとして働く一方、佐多稲子や宮本百合子らを知る。

満州事変・・1931＝31歳：

五一五事件・1932＝32歳：

日本共産党に入っていた夫が検挙される。

帝人疑獄事件1934＝34歳：

夫が転向して出所。この間、{働く婦人}の編集にたずさわり、責任者の佐多の配慮で、

芥川直木賞始1935＝35歳：

宮本百合子の勧めで、{婦人文芸}に、はじめて小品「月給日」を発表、

二二六事件・1936＝36歳：

日中戦争始・1937＝37歳：

健保+総動員 1938＝38歳

\*佐多稲子の勧めで、郷里の小豆島に取材した童話的・民話的性質の濃い短編「大根の葉」を{文芸}に発表、好評を得て出世作となる。

大政翼賛会・1940＝40歳

\*ついで生家の一族の変転を描いた短編「唇」などを書き、これらを載せた最初の創作集「唇 他五篇」によって新潮社文学賞を受賞、作家的地歩を固めた。児童文学の処女作「祭着 他九篇」を発表、

日米開戦・・1941＝41歳

「たんぼぼ」「ともしび」「船路」「私の雑記帳」。以後、小豆島の風土に根ざした小説・童話を次々発表、

・・・・・1942＝42歳

短篇集「石」、

創価学会検挙1943＝43歳

「子熊座」「女傑の村」。

年金+総武装 1944＝44歳

「花のいのち」「夕顔の言葉」「疎開中に、「海のたましひ」を刊行し、

敗戦・・・・1945＝45歳

「松のたより」。敗戦後は、

新憲法公布・1946＝46歳

「ふたたび」、

新憲法施行・1947＝47歳

「赤いステッキ」「霧の街」「三夜待ち」「十五夜の月」、

極東裁判決・1948＝48歳

「あんずの花の咲くころ」「海べの村の子供たち」「おみやげ」「渋谷道玄坂」「小さな物語」「柳の糸」、

三大事件・・1949＝49歳

「たからの宿」「妻の座」。「海のたましひ」を改題した「柿の木のある家」で第一回児童文学者協会賞。

独立回復・・1951＝51歳

「右文覚え書」。「港の少女」。「母のない子と子のない母」「坂道」で、

メーデー事件・1952＝52歳

「花はだれのために」。**\*芸術選奨文部大臣賞。とくに「二十四の瞳」はベストセラーとなり、**

テレビ放送始・1953＝53歳

「妻の座・唇」「私の花物語」。壺井栄作品集「あしたの風」、

自衛隊発足・1954＝54歳

「紙一重」「岸うつ波」「月夜の傘」。木下恵介監督の「二十四の瞳」映画化で、「壺井栄ブーム」に。

55年体制始・1955＝55歳

「一本のマッチ 私の人生遍歴」「美しい生き方を求めて」「まないたの歌」。「風」で第7回女流文学賞。

国連加盟・・1956＝56歳

「襦袢」「雑居家族」「裾野は暮れて」「寄るべなき人々」。翌々年にかけ「壺井栄作品集」全25巻、

なべ底不況・1957＝57歳

「海風」「草の実」「極楽横丁」「小さな花の物語」「忘れ霜」、

インストメン・1958＝58歳

「潮時計」「風と波と」。「壺井栄童話集」。「あたたかい右の手」、

美智子妃・・1959＝59歳

「雨夜の星」「おこまさん」「随筆袖の大馬鹿」、

安保闘争・・1960＝60歳

「いのちかなし」「大根の葉」「ふたごのころちゃん」。NHK銀河ドラマ「どこかでなにかが」、  
夫繁治との間に実子は無かったが、母を失った姪・孤児となった甥の息子を引取って育て、

全国総合計画1962＝62歳

「あす咲く花」「あすの花嫁」「若い樹々」「若い娘たち」、

TV宇宙中継始1963＝63歳

「まあちゃんと子ねこ」、

東京リビック 1964＝64歳

「小豆島」「母と子の唇」「日めくり」「柚原小はな」嫁さん。「壺井栄児童文学全集」全4巻、

大学紛争始・1965＝65歳

「袖ふりあう」「母と娘と」。壺井栄自伝作品集「海の音」。「壺井栄名作集」全10巻、

美濃部都知事1967＝67歳：夫より早く、没した。

「この人どんな人」、「没年日本史人物事典」、山田風太郎「人間臨終図巻」、「目でみる日本人物百科」、「日本の女性」、